

仙南けやき教室便り ⑦

「せめて」と願ってしまう

家にいる我が子を見るたびに、願ってしまうこと。

「せめて」学校とは繋がってほしい。

「せめて」友達とは繋がってほしい。

「せめて」勉強だけはやってほしい。

これから先が見えず不安だと、「せめて」と強く思ってしまう。

「子どものために」と願っているように見えますが、
実は、大人の願望が強く込められているように感じます。

子どもが不登校になると、多くの大人が

周りから「取り残されてしまう感覚」「落ちこぼれてしまう感覚」をもつことが多いです。

「なんで・・・」「どうして・・・」と悩み、それが子どもに伝わって
不安定さや絶望感を招いてしまうこともあります。大人だって不安だし、そうなるのは当然です。

でもここで、声に出して言ってみませんか？ 「不登校でも大丈夫！」と。

不登校は、「ただ学校に行かない状態」。

それだけのこと。ただ、それだけのこと。それだけのこと。

さあ、大人の都合の、勝手な焦りはやめにしましょう！

「そういえば、こんなこと」

中3の生徒が学校の先生から

「最後の文化祭だから」

「最後の合唱コンクールだから」

と学校行事に誘われました。

しかし、本人曰く

「最後だから」と誘ってくるけど、

私には最初もないから、最後もないんです！



なるほど！ 言葉って面白い！ 子どもって面白い！
比べるのは、その子の過去と今。